

おいしいお米を作るには

聖園女学院中学校

一年 大戸 晶世

私の通っていた小学校は、田んぼに囲まれています。そのため、五年生の時には田植えの授業がありました。その時、地域の農家さんにこんなことを教えていただきました。

「お米作りには、きれいなお水が必要です。お米の稲は、毎日たくさんのお水を吸います。だから、そのお水のきれいさでお米の味は変わってくるのです。」

小学校の田植えの授業では、実際の田んぼでみんなで並んで手で植えました。地域の農家さんに教えてもらいながら、学年全員で協力してお米を育てます。収穫も自分たちで行いました。その頃には、学校の周りは見渡す限り黄金色になります。でも、こんなに田んぼがあつてどのくらいの量のお水を使うのだろう、と思いました。

学校の近くには、きれいな川が流れています。その川から田んぼにお水を引いているのですが、お水が無くなってしまわないかと不安になってしまうほどの数の田んぼがあります。そこで、一枚の田んぼに使う水の量を計算してみると、その結果は百トンにもなりました。

それが五十枚以上は確実にあります。学校のある地域は、千トン以上の水が必要になります。学校のある地域は、梅雨の時期に水が入るので水が足りないことはないと思います。でも、五千トンは、想像も出来ないほどの大きな数字でもおどろきました。

しかし時々、田んぼへ流れていくであろう水路の水にごみが入っていたり、田んぼにプラスチックが浮かんだりしているのを見かけます。そのお水で地域のおいしいお米をつくっているのに、と思うと悲しくなります。ごみが増えるとおいしいお米もつくれなくなるし、海の魚や川も汚れる原因になり、日本の伝統食、和食は、なくなってしまうかもしれません。お米も、お魚も、おみそ汁も、つけ物の元のお野菜も、きれいなお水があるからこそおいしく育つのですから。料理は、つくる人だけががんばってもおいしくはなりません。農家さんやその地域

にすむ人たちも関わっているし、お水は川や海で世界とつながっています。つまり、おいしい料理は世界中でつくるのです。その料理は、私たち人間の栄養になります。すべてを総合して考えると、水をきれいに大切にすることは、我々人間の体を大切にすることにつながるのです。一人一人がポイ捨てをしないようにするだけで、世界中の人の健康が守られるのです。逆に、一人の「まあいいや」が世界の健康をゆるがしかねない、ということですよ。おいしいお米も、お魚も、人々の健康も、世界中の一人一人がつくっていく。そのことに気付いた時、私はこの小学校の周りの豊かな自然、川のきれいな水を大切にしたいと思いました。大きなことはしなくても、ごみはしっかりと分別してごみ箱に捨てよう、そういう意識をもつだけで世界中の自然が守られるのではないかと思えます。時々、私は小学校時代の友達と地域の公園のごみ拾いをします。その公園には、まだベビーカーの赤ちゃんも、おじいちゃんおばあちゃんも、みんな遊んだりおしゃべりしたりしにきます。私たちもよく遊びにいきます。でも、大人たちがお酒のびんを捨てていたり、タバコのすいながら落ちていたりして、あまりきれいとはいえない

い状況です。公園の近くには大きな川があるので、ゴミは風にとばされて川におちてしまいます。捨てた人は、世界中の人の健康に影響するとは考えていないでしょう。でも、みんながそのことを意識するようになる、公園も川もきれいになると思います。

私はこれからも、水を大切に使うていきたいと思っています。そして、世界中の人がきれいな水を使えるようになるために、地域みんなと豊かな自然を守っていきたいと思います。